

資料3 高齢者実態調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

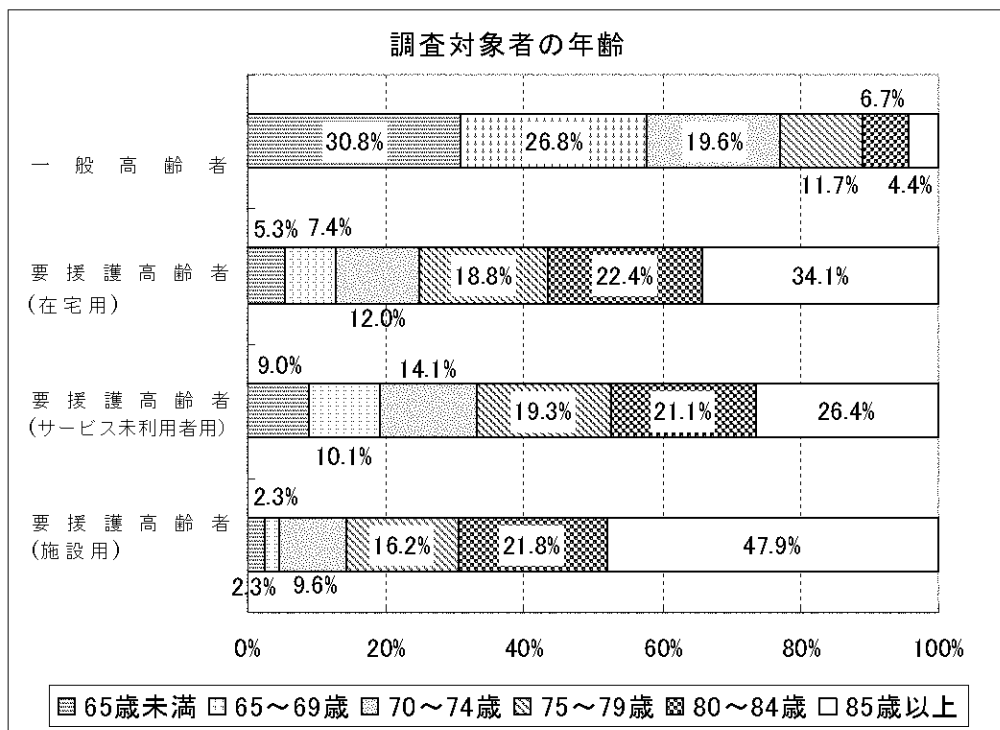
高齢者総合福祉計画の改定にあたり、高齢者の実態、介護サービスの利用状況、今後の利用意向等を把握し、計画策定にあたっての基礎資料とする。

(2) 調査の種類

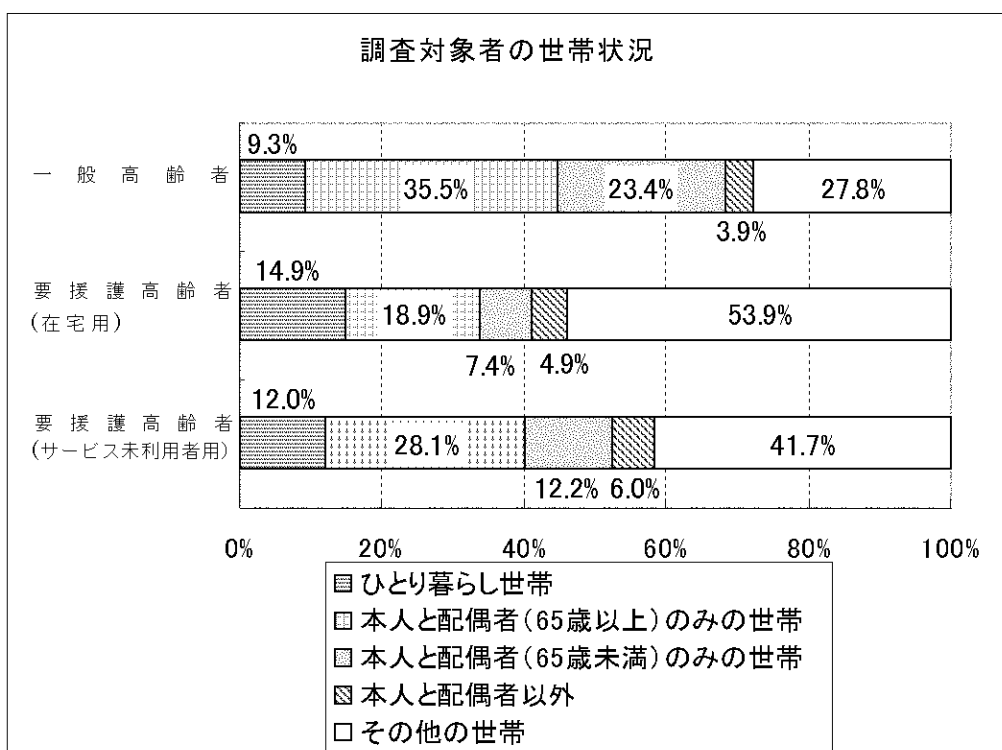
区 分	一般高齢者	要援護高齢者 (在宅用)	要援護高齢者 (サービス未 利用者用)	要援護高齢者 (施設用)	居宅介護 サービス事業者	介護支援 専門員	
(1)調査対象	60歳以上の 一般高齢者	居宅介護 サービス 利用者	居宅介護 サービス 未利用者	市内の施設 サービス 利用者	本市への介 護サービス 提供事業者	本市担当介護 支援専門員	
(2)標本数	3,989	1,039	902	359	246	125	
(3)回収結果	数	2,940	1,026	797	305	144	76
	率	73.7%	98.7%	88.4%	85.0%	58.5%	60.8%
(4)抽出方法	無作為抽出法		全件	無作為抽出法	全件		
(5)調査方法	郵送配付・ 回収	郵送配布・ 介護支援専 門員回収	郵送配布・ 市職員回収	施設にて 配付・回収	郵送配付・回収		
(6)調査時期	平成13年11月～12月						

2 調査対象者の状況

(1) 年齢



(2) 世帯状況



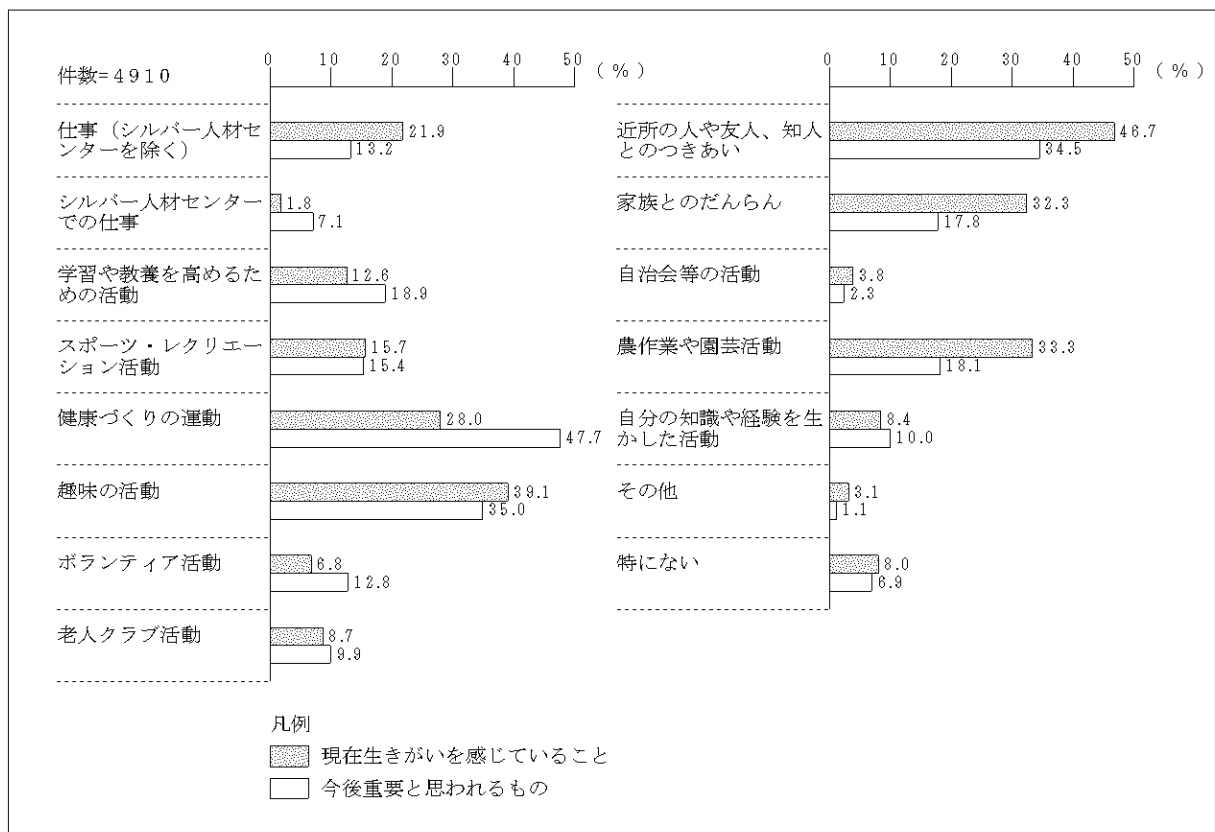
3 調査結果の概要

(1) 一般高齢者調査

① 生きがい

現在生きがいを感じていることについては、1位は「近所の人や友人、知人とのつきあい」、次いで「趣味の活動」、3位が「農作業や園芸活動」となっている。

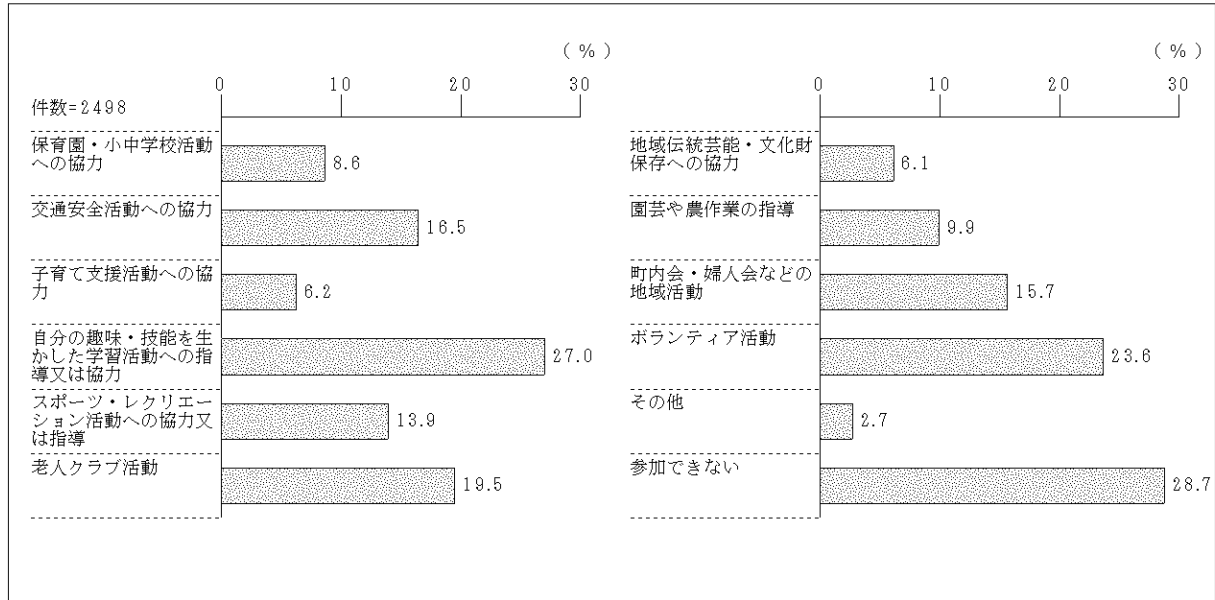
今後重要と思われるものについては、1位は「健康づくりの運動」、次いで「趣味の活動」、3位が「近所の人や友人、知人とのつきあい」となっている。



(複数回答)

② 地域活動への参加意向

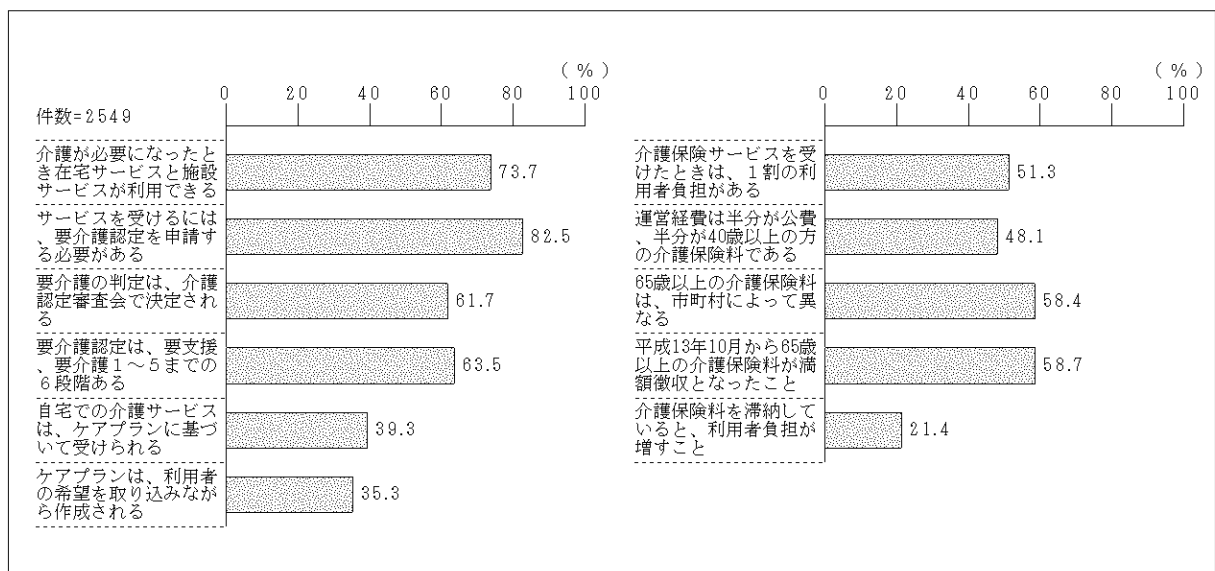
1位は「自分の趣味・技能を生かした学習活動への指導又は協力」、次いで「ボランティア活動」、3位が「老人クラブ活動」となっているが、「参加できない」という意見が約3割を占めている。



(複数回答)

③ 介護保険制度の認知度

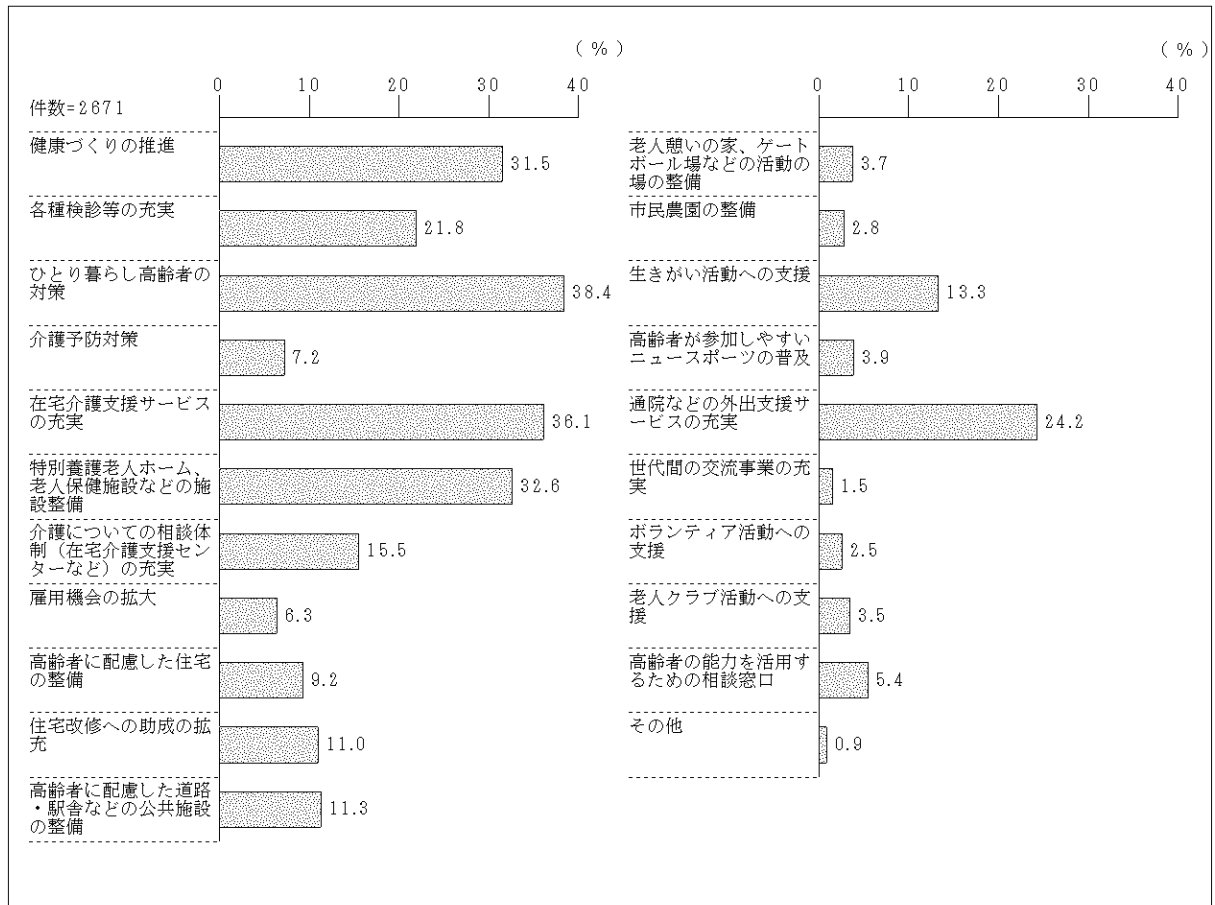
介護保険制度の認知度については、1位は「サービスを受けるには、要介護認定を申請する必要がある」、次いで「介護が必要になったとき在宅サービスと施設サービスが利用できる」となっており、3位が「要介護認定は、要支援、要介護1～5までの6段階ある」となっている。



(複数回答)

④ 高齢社会に対応した重要な施策

1位は「ひとり暮らし高齢者の対策」、次いで「在宅介護支援サービスの充実」、3位が「特別養護老人ホーム、老人保健施設などの施設設備」となっている。



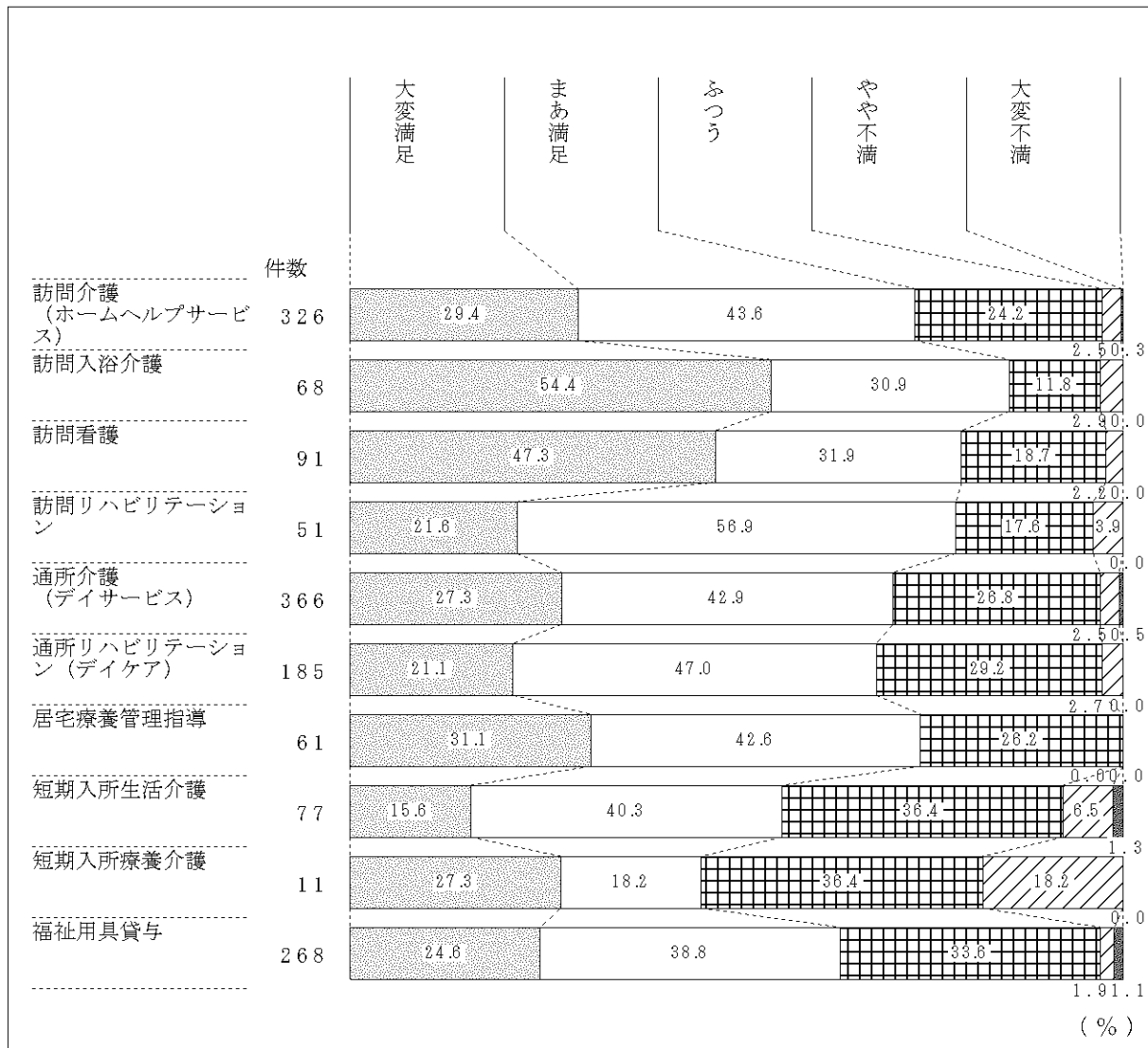
(複数回答)

(2) 要介護高齢者（在宅用）調査

① 介護保険サービスの満足度

介護保険サービスごとの満足度については、“満足*1”と回答した人が多いものは、「訪問入浴介護」の85.3%、次いで、「訪問看護」（79.2%）、「訪問リハビリテーション」（78.5%）、「居宅療養管理指導」（73.7%）の順となっている。

逆に“不満*2”と回答したものは、「短期入所療養介護」（18.2%）が多くなっている。



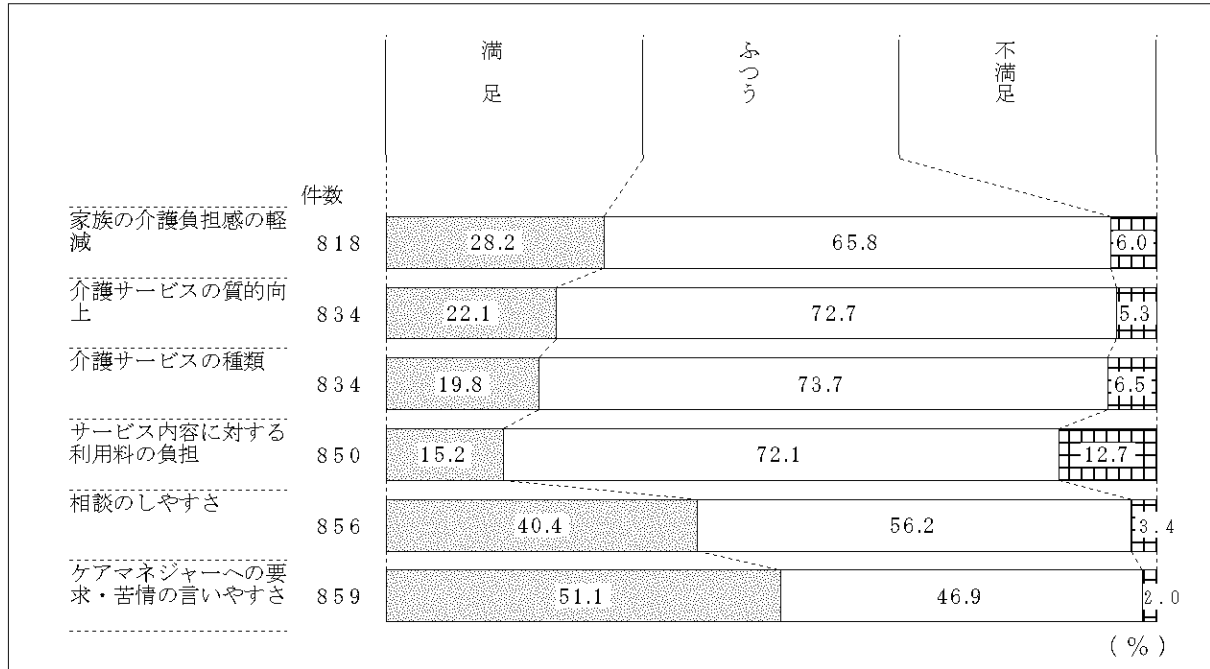
※1 「大変満足」「まあ満足」の合計

※2 「やや不満」「不満」の合計

② 介護保険制度の満足度

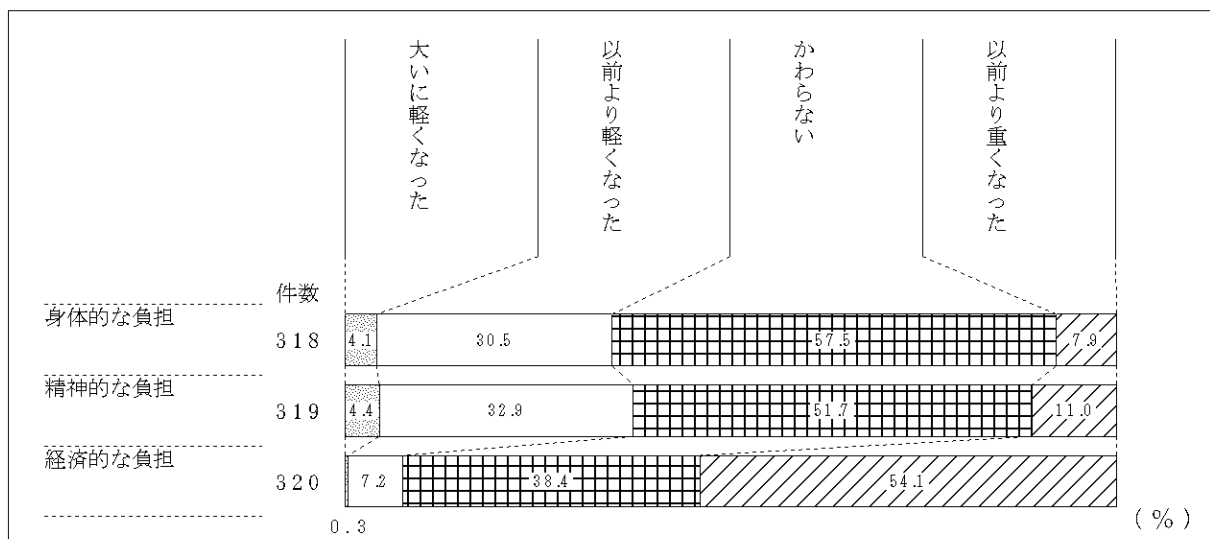
介護保険制度開始に伴う各項目ごとの満足度については、「満足」と回答した人が多いものは、「ケアマネジャーへの要求・苦情の言いやすさ」の51.1%が最も多くなっている。

一方、「不満足」と回答した人が多いものは、「サービス内容に対する利用料の負担」(12.7%)が多くなっている。



③ 介護保険開始後の介護の負担感

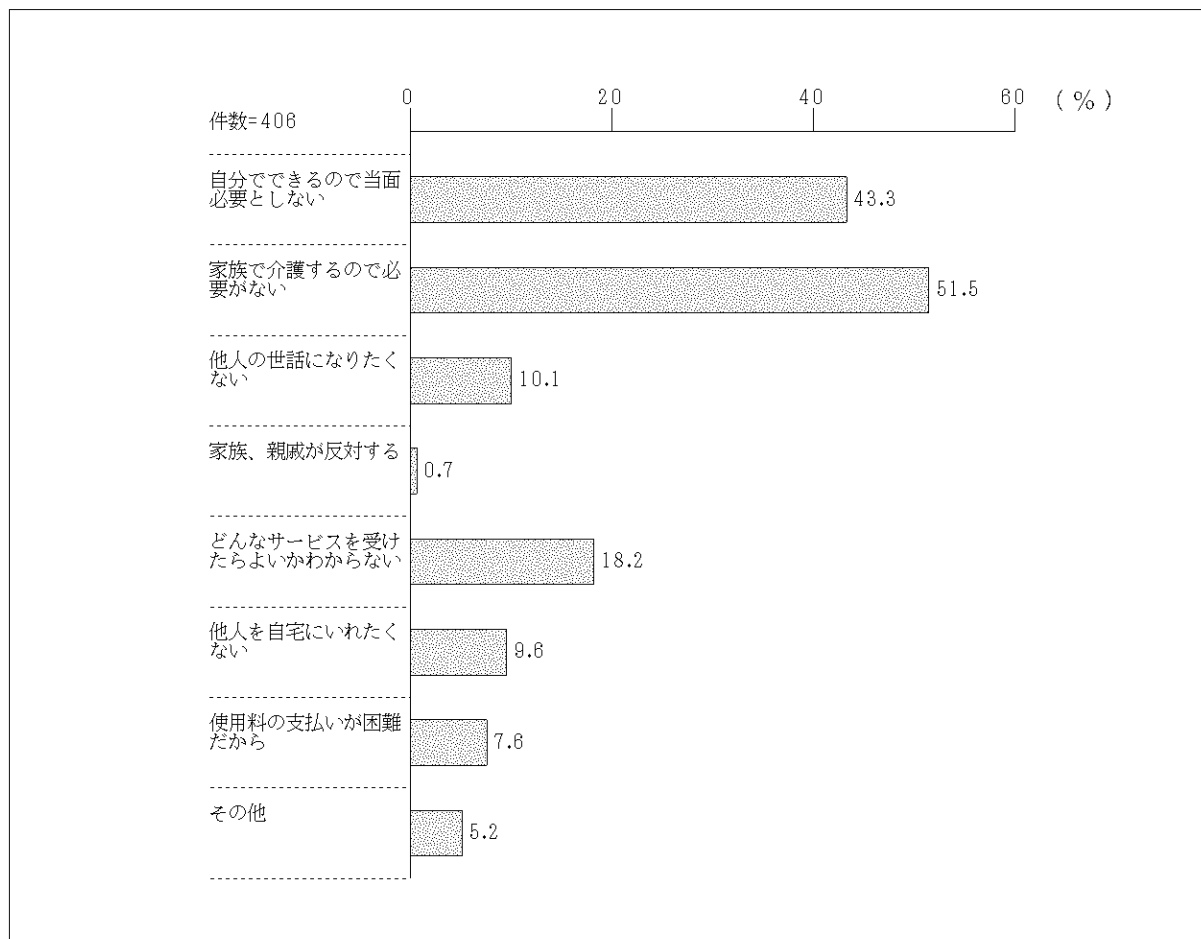
介護保険制度開始後の介護の負担感については、身体的な負担、精神的な負担では、「以前より軽くなった」が30.5%、32.9%となっているが、経済的な負担については「以前より重くなった」と感じている人が54.1%となっている。



(3) 要介護高齢者（サービス未利用者用）調査

① 介護保険を利用していない理由

介護サービスを利用していない理由については、「家族で介護するので必要がない」と回答した人が 51.5%と最も多く、以下、「自分でできるので当面必要としない」(43.3%)、「どんなサービスを受けたらよいかわからない」(18.2%)「他人の世話になりたくない」(10.1%)の順となっている。

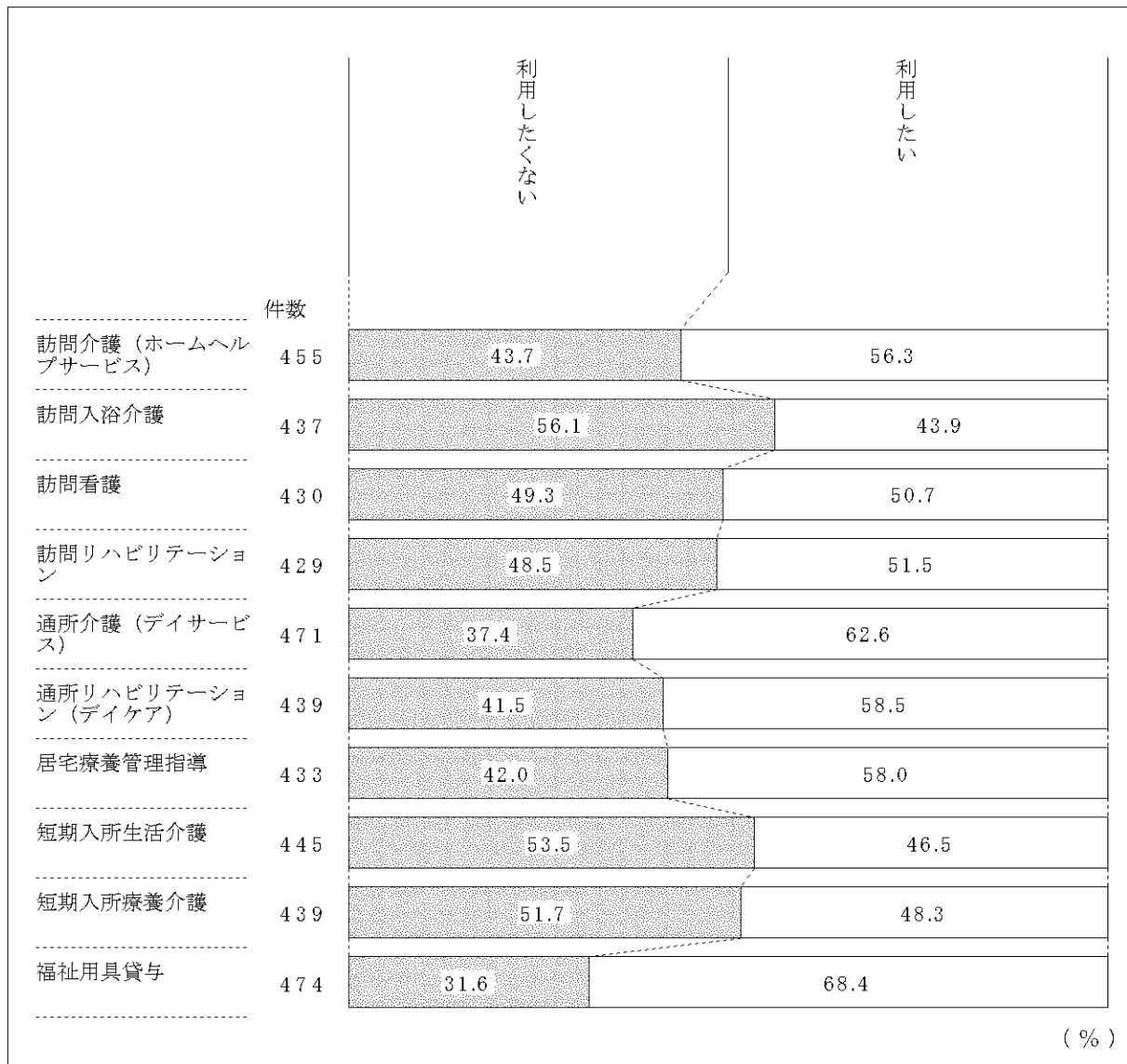


(複数回答)

② 介護保険サービスの利用意向

今後の利用意向については、「利用したくない」と回答した人が多いものは、「訪問入浴介護」が56.1%と最も多く、以下、「短期入所生活介護」(53.5%)、「短期入所療養介護」(51.7%)、「訪問看護」(49.3%)の順となっている。

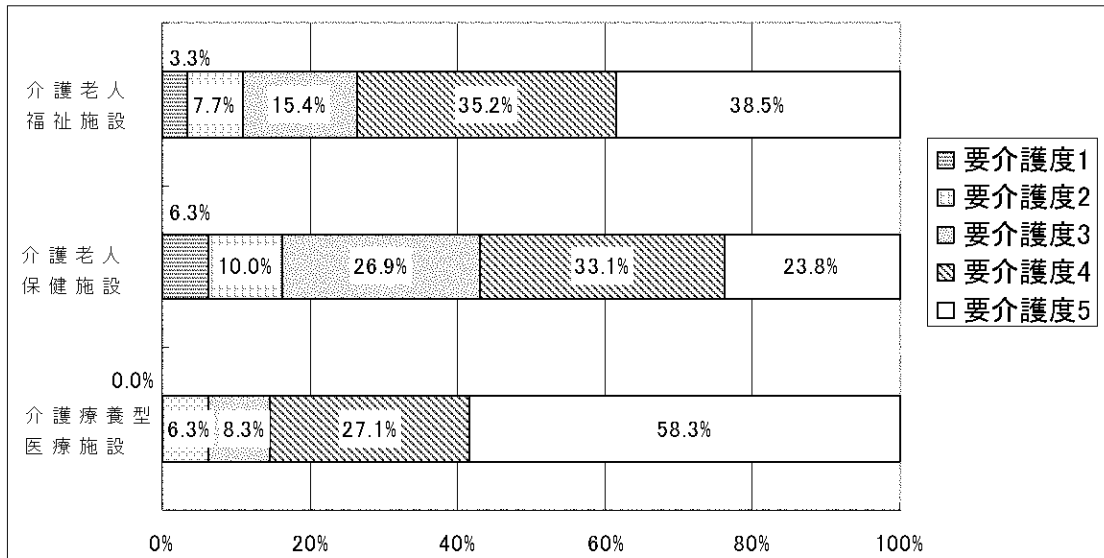
一方、「利用したい」と回答した人が多いものは、「福祉用具貸与」が68.4%と最も多く、以下、「通所介護」(62.6%)、「通所リハビリテーション」(58.5%)、「居宅療養管理指導」(58.0%)の順となっている。



(4) 要援護高齢者（施設用）調査

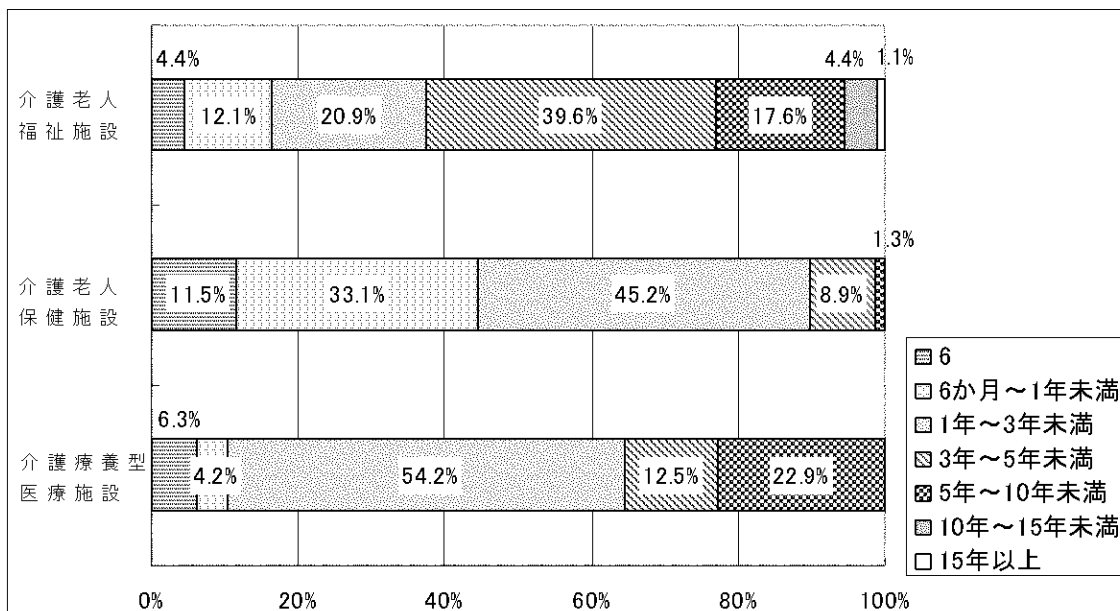
① 施設ごとの入所者の要介護度

施設ごとの入所者の要介護度については、介護老人福祉施設では、「要介護度5」38.5%と最も高く、介護老人保健施設では、「要介護度4」33.1%、介護療養型施設では、「要介護度5」58.3%が多い状況である。



② 施設ごとの入所者の入所期間

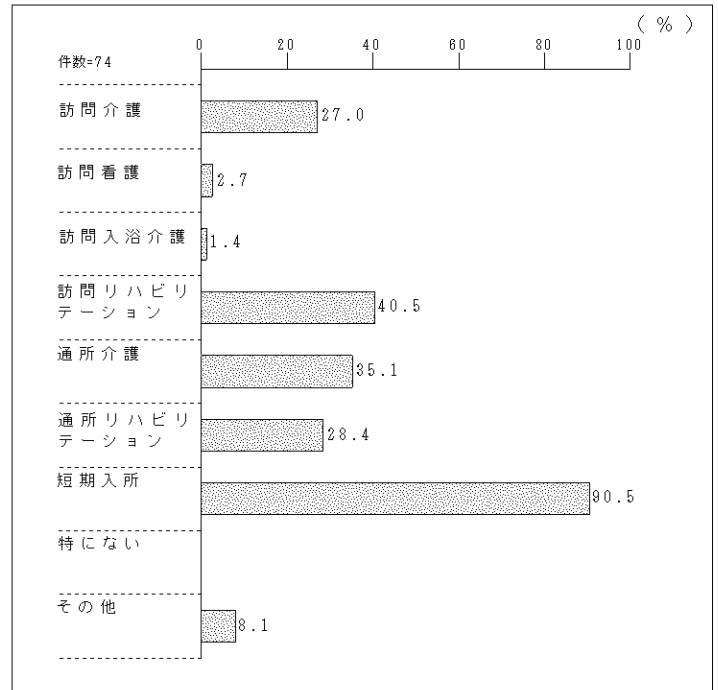
施設ごとの入所者の入所期間については、介護老人福祉施設では、「3年～5年未満」39.6%と最も高く、介護老人保健施設、介護療養型施設では、「1年～3年未満」45.2%、54.2%と最も高くなっている。



(5) 介護支援専門員調査

① 介護保険対象の居宅サービスで不足と感じるもの

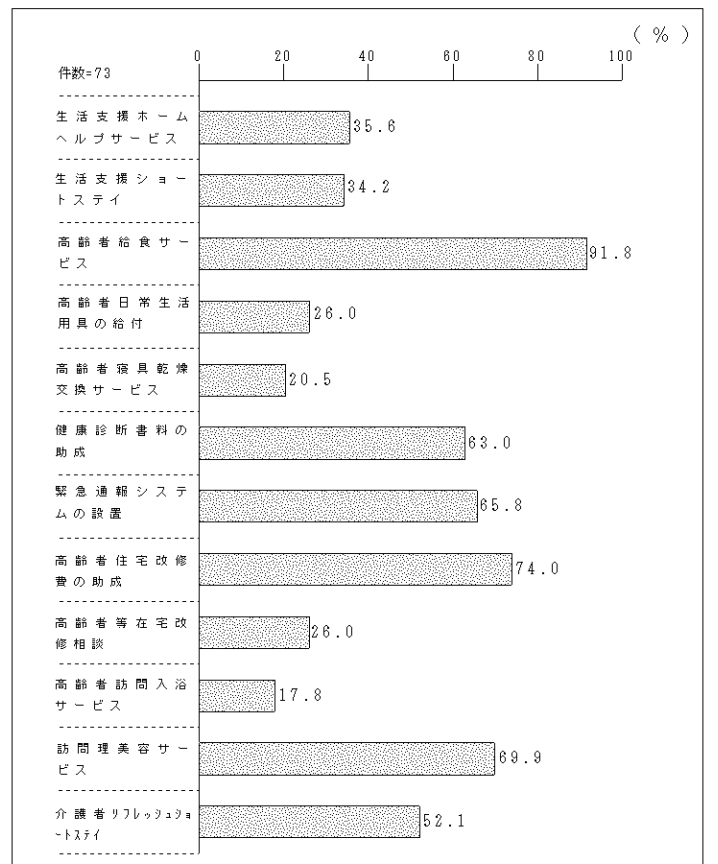
介護保険対象の居宅サービスで不足と感じるものについては、「短期入所」と回答した人が90.5%と最も多く、以下、「訪問リハビリテーション」(40.5%)「通所介護」(35.1%)の順となっている。



(複数回答)

② 介護保険対象外サービスで効果的と思われるもの

介護保険対象外サービスで効果的と思われるものについては、「高齢者給食サービス」と回答した人が91.8%と最も多く、以下、「高齢者住宅改修費の助成」(74.0%)、「訪問理美容サービス」(69.9%)の順となっている。

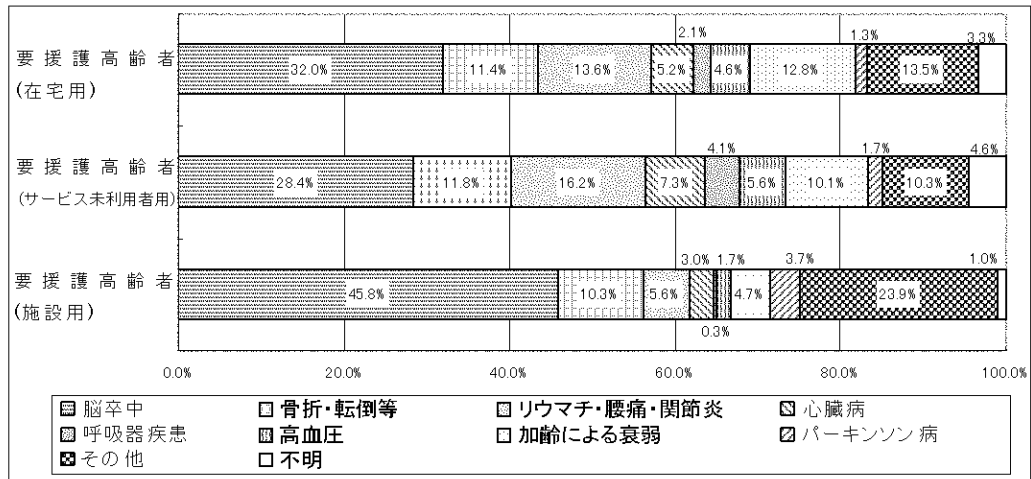


(複数回答)

(6) 各調査の共通項目

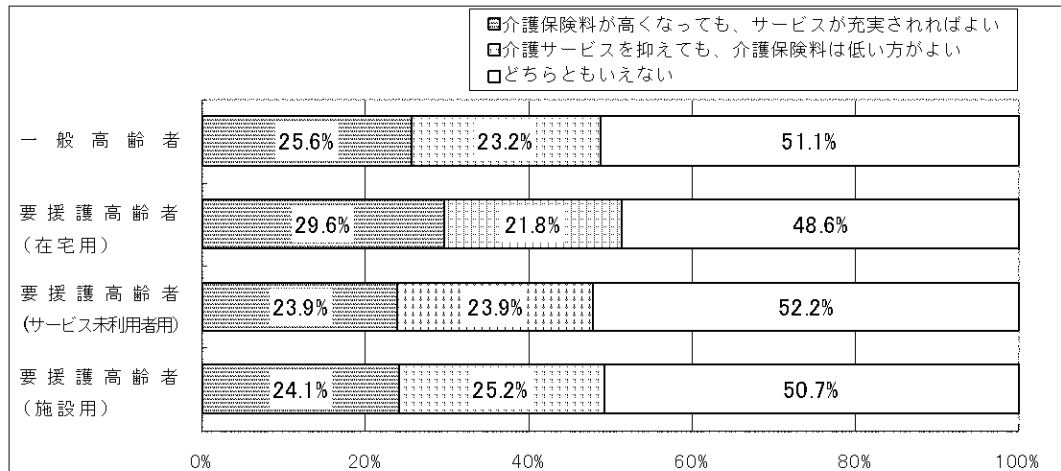
① 現在の状態になった主な原因

現在の状態になった主な原因としては、要援護高齢者（在宅用）、要援護高齢者（サービス未利用者用）では、「脳卒中」が32.0%、28.4%と最も高く、次いで「リウマチ・腰痛・関節炎」13.6%、16.2%となっている。また、要援護高齢者（施設用）では、「脳卒中」が45.8%と最も高くなっている。



② 介護保険料と介護サービスのあり方

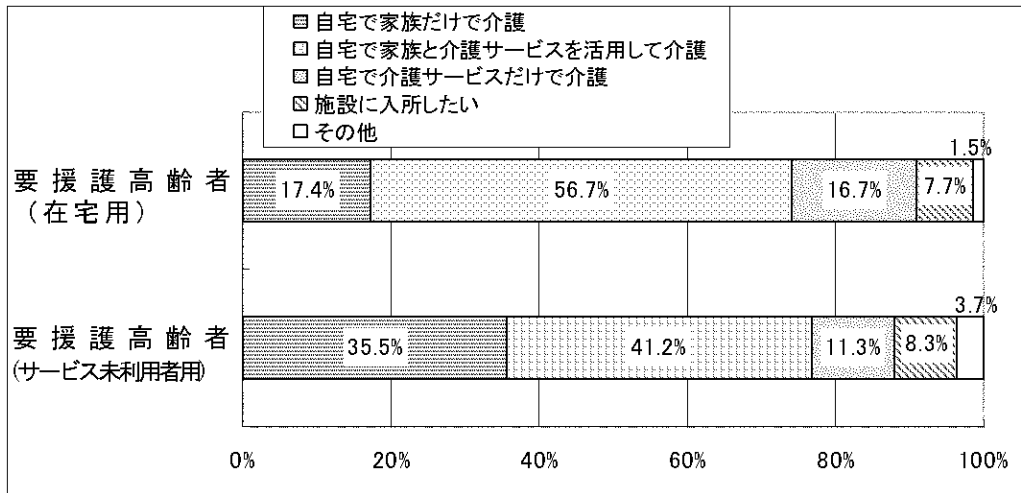
「介護保険料が高くなっても、サービスが充実できればよい」と「介護サービスを抑えても介護保険料が低い方がよい」について比較したところ、顕著な差異は見られないが一般高齢者、要援護高齢者（在宅用）において、「介護保険料が高くなっても、サービスが充実できればよい」と答えた人がやや多かった。



③ 今後の介護方法

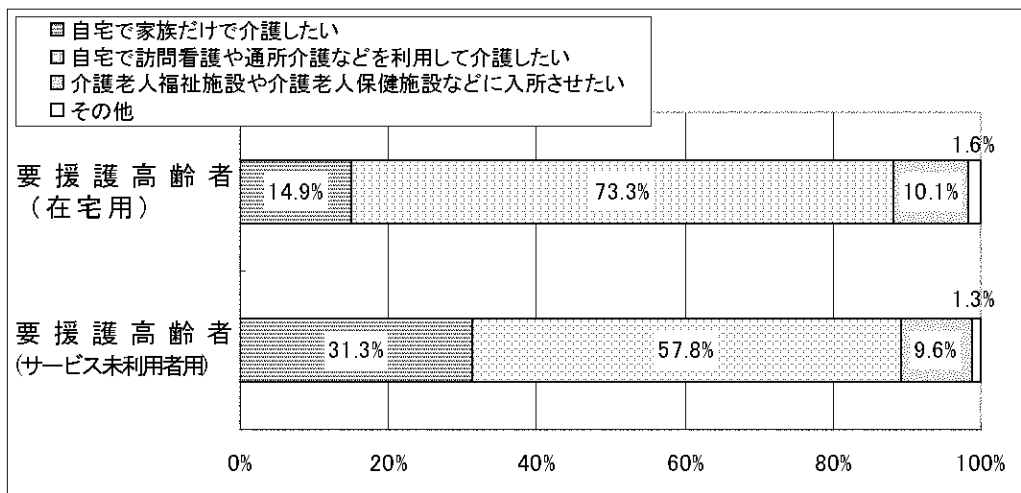
ア 今後、どのように介護してほしいか

要援護高齢者（在宅用）、要援護高齢者（サービス未利用者用）では「自宅で家族と介護サービスを活用して介護」がそれぞれ 56.7%、41.2%と最も高くなっているが、次いで「自宅で家族だけで介護」が 17.4%、35.5%となっており、在宅に比べサービス未利用者においてその割合が高くなっている。



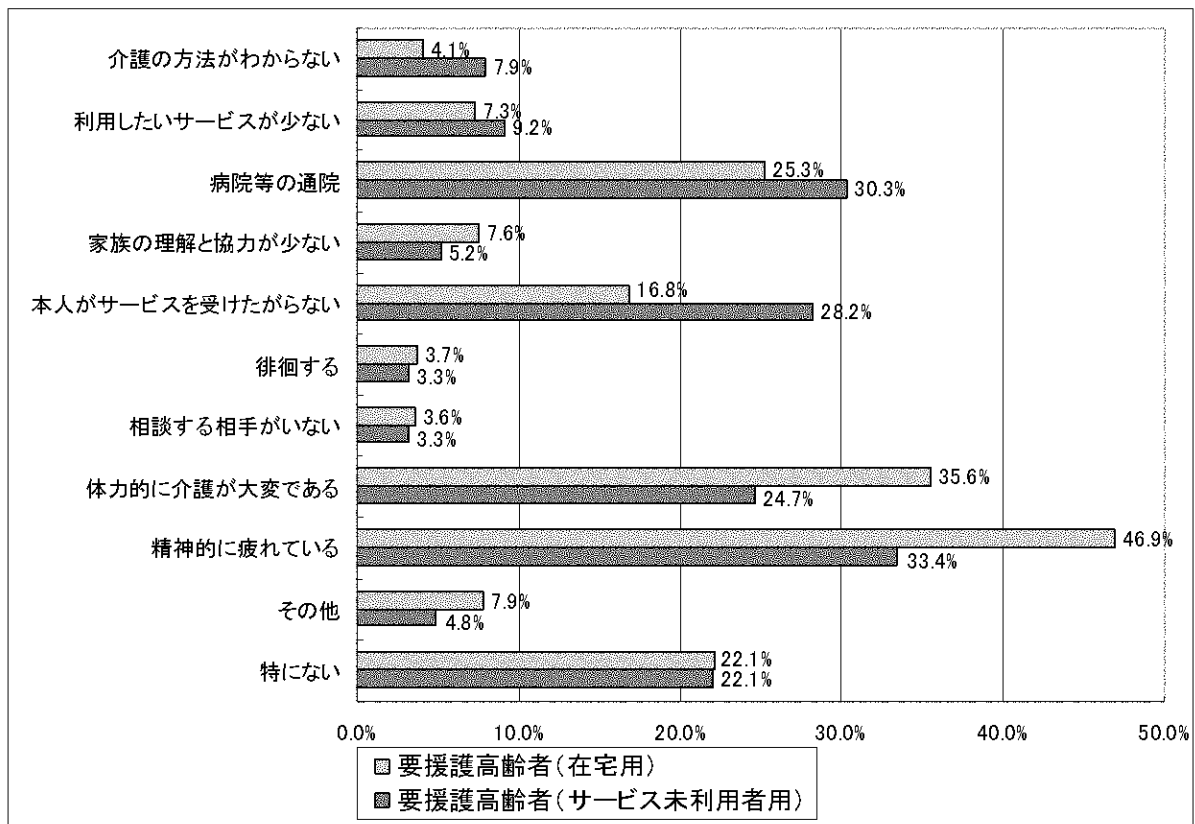
イ 今後、どのように介護していきたいか

要援護高齢者（在宅用）、要援護高齢者（サービス未利用者用）とも「自宅で訪問看護や通所介護などを利用して介護した」がそれぞれ 73.3%、57.8%と多く、次いで「自宅で家族だけで介護したい」が 14.9%、31.3%となっており、在宅に比べサービス未利用者においてその割合が高くなっている。



④ 介護者が困っていること

介護者が困っていることとしては、要援護高齢者（在宅用）、要援護高齢者（サービス未利用者用）とも、「精神的に疲れている」（46.9%と33.4%）が最も高く、次いで要援護高齢者（在宅用）では「体力的に介護が大変である」（35.6%）、「病院等の通院」（25.3%）、要援護高齢者（サービス未利用者用）では「病院等の通院」（30.3%）、「本人がサービスを受けがらない」（28.2%）の順となっている。



（複数回答）